

《第 526 回(2025 年 7 月 10 日) 子どもの本の読書会記録》 参加者:10 人
時間:10:00~11:30 場所:オーテピア 4 階集会室

『とびたて!みんなのドラゴン 難病 ALS の先生と日明小合唱部の冒険』 オザワ部長/著 岩崎書店

7月の読書会は『とびたて!みんなのドラゴン』を読みました。第71回青少年読書感想文全国コンクール小学校高学年の部の課題図書です。小学校の合唱部の子どもたちが、難病を患う先生と合唱コンクールの全国大会を目指すノンフィクションです。

次に、読書会に参加した方の感想を紹介します。

●小学生のときに、合唱部で練習をつみ成長していくっていいなと思った。みんなと一体になれるようで、気持ちいいだろうと思う。ピアノ伴奏の古賀先生がいいところでいいことを言う。コンクール当日も魔法をかけてくれる。マナミさんも大きな声で歌ったり、みんなの前で話ができるようになってよかった。

●自分も教育現場にいたから、先生の立場も生徒の成長する姿もとてもよく分かる。子どもたちの成長過程に携われたことは本当によかった。先生が言うように「幸」「不幸」は自分の心が決めること。今は自己肯定感が低い子が多い。誰にも良いところは必ずあるから、周囲の大人が認めてあげて欲しい。自分自身を好きになって欲しい。

●表紙などにある写真の表情がとても良い。マナミさんは、一歩踏み込む勇気ときっかけがあれば成長できる子だったんだと思う。先生が顧問を辞めるという話になったとき、小学生でここまで意見をまとめられるのはすごいと思った。卒部のときに聞いたマナミさんの夢を竹永先生はどんな気持ちで聞いていたのか。大人にもささる本。

●ALSの先生と生徒たちとの心の交換の話。著者は、先生が高校時代に不登校になっていたことにも目を向けている。日明小の子どもたちも、この合唱コンクールを通して、自分の壁を乗り越えていく体験ができたと思う。思春期の子どもたちに読んでもらいたい。自分の壁を乗り越えるためには、周囲に助けを求めることも必要。

●どんな先生に出会うかによって、子どもたちがどう成長していくかも変わっていく。人と関わることは先生の病気のリハビリにもなる。先生自身がいろいろなことを乗り越える強さを持っているから、子どもたちにすばらしい指導ができる。この本が課題図書になることで、子どもたちが読むきっかけになればいい。

●先生自身が不安を抱えながら、個性的な子どもたちの不安にも向き合っている。みんなが支えあっているところがよかった。結果につながらなくても頑張ることが大切。どの子に感情移入して読むかによって、読書感想文の内容も違ってくると思う。この本を読んだ子どもたちがどんな感想文を書くのか楽しみ。

●子どもたちが成長していく姿がよかった。どの子の心にもドラゴンがいるはず。自分も教育現場にいたが、子どもたちとずっと接すればよかったと思った。これからは自分のドラゴンを育てていきたい。読書会に参加しないと出会わない本だった。読めてよかった。

●ALS と聞くと体が動かなくなった状態を思い浮かべるが、顧問になる決意をする先生はすごい。マナミさんが、学校の先生になりたいと言うところは、先生冥利につきる。ちょっとしたきっかけや思い出が、子どもたちがこれから生きていく上での心の支えになると思う。それは先生にとっても同じだろう。

●どんどん成長する子どもたちはすごいと感じた。合唱部での経験がこれからの子どもたちを支える力になる。心ひとつで幸か不幸かは決まる。先生は絶望した日がありながらも、日々心を強く持ち続けている。先生が合唱部の子どもたちを指導する日が一日でも長く続いて欲しい。

●先生と子どもたちが信頼しあっていたからこそその結果だと思う。先生もマナミさんも合唱部に関わる前から、日明小の歌に心を動かされていて、歌の持つ力を感じた。先生は病気があるからこそ、自分が後悔しないようにと、子どもたちと真剣に向き合ってきたのではないだろうか。

次回 9月11日(木)10:00~11:30 オーテピア 4 階集会室

□『僕たちは星屑でできている』 マンジート・マン/作, 長友 恵子/訳 岩波書店

※申込み・参加費は不要です。